

平成27年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部	1
人間文化学部 人間文化学科	3
人間文化学部 心理学科	4
人間文化学部 メディア情報文化学科	5
工学部 スマートシステム学科	6
工学部 建築学科	7
工学部 情報工学科	8
工学部 機械システム工学科	9
生命工学部 生物工学科	1 7
生命工学部 生命栄養科学科	2 0
生命工学部 海洋生物科学科	2 1
薬学部	2 3

経済学部

■ 担当者氏名

(代表) 早川達二

■ ゼミ数、ゼミの学生数

学科・コース未定の平成 27 年度新入生を学生番号順に 11 クラスに分割した。1 クラスあたり平均 16～17 人であった。

担当教員は以下のとおりである。

- ・経済学科 : 石丸敬二, 上迫明, 高阪勇毅, 中村和裕, 三川敦
- ・国際経済学科: 中村博, 藤本浩由, 馬成三
- ・税務会計学科: 井手吉成佳, 小林正和, 中沢孝夫

■ 実施内容

担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。シラバスは教員によって若干異なるものの、大学生活へのオリエンテーション(学び、目標)、本の読み方、講義の取り組み方、図書館の利用方法、履修指導、学科・コースの説明(2年次選択のための参考として)などはほぼ共通して扱われた。

具体例としては、以下のような内容があった。

- ・時間割の作成、定期試験などのスケジュールの確認。
- ・基礎的な数学力をつけるため、数学基礎の問題集を解く。
- ・SPIの問題集を解く。
- ・新聞記事を読んで解説する。
- ・図書館の使い方、文献の検索方法、授業の受け方、ノートの取り方、家庭学習の仕方、レポートの書き方を修得する。
- ・文章の読み方・書き方を学ぶ。
- ・インターネットを活用した情報収集を行う。
- ・プレゼンテーション資料の作成を行う。
- ・知識を身につけて専門書を読む能力を養う。
- ・明治以降の経済や政治の流れを学ぶ。
- ・大学生と高校生の違いを認識する。
- ・主体性、自己責任、コミュニケーション能力、表現力、学力、人間性を培う。
- ・PDCA サイクルの大切さを学ぶ。
- ・課題発見力、問題解決力を養う。
- ・将来像への夢・希望・目標に到達するための道筋を示す。
- ・グループディスカッションの実践。
- ・ディベートの実践。

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。また、教員とゼミ仲間とのグループディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて、課題の探求力と社会の中で絆をつくるための自己表現力やコミュニケーション力を養っている。

平成 27 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な取り組みは、以下のとおりである。

- ・ホームルーム化し、学生との交流、学生同士の交流を重視した。
- ・LINE でグループを作り、それを使って質問に答えたりお互い情報交換をしたりした。
- ・基礎的な学力(数学、国語)の習得に力を入れた。
- ・高校までとは違う大学での学び方について学んだ。
- ・ワークショップを通して考えさせた。
- ・前半にテーマを個人でまた仲間と自由に考えて、後半に時間設定をした発表を行う方式をとった。
- ・自分を知る、社会を知る、自分と社会の接点を知る事の大切さを、着実に意識させようとした。
- ・グループディスカッションを通して、「対人能力」を身に付けさせた。
- ・社会人、大人としての、人間関係の大切さをしっかりと意識させた。
- ・国内外の出来事、ニュースに関心を持たせるように教育した。
- ・物事を深く考える能力を指導した。
- ・コミュニケーション能力の向上を図るため、コーチング、心理学等を応用した内容を実施した。
- ・アルバイト、勉強方法などについての相談を受けた。

■ 教養ゼミの成果

平成 27 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・チーム内での自分の役割を認識することでディスカッションに積極的に参加する姿勢が身についてきた。
- ・プレゼンテーション能力が向上した。
- ・相互理解が深まった。
- ・大多数の学生は問題なく1年間過ごすことができ、また、教養講座への参加率も高かった。
- ・基礎学力の向上があったように思う。
- ・各自が自分の考えていることを発表することができるようになった。
- ・ゼミ生同士でのコミュニケーションがよくできるようになった。
- ・勉強方法、アルバイト、クラブなどの各自の相談により指導ができた。

■ 課題

平成 27 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な課題は、以下のとおりである。

- ・ディベートやディスカッションで特定の人物の発言力が強すぎて他のメンバーの発言の機会や考える機会が奪われることがあった。
- ・固定メンバー(学生)に対して1年間通して教えるのも良いが、輪番制で授業担当を変えると学生がいろいろな教員を知る機会ができるので、マンネリ防止のためにも良いかもしれない。担任制は変えずに。
- ・学生へのアプローチのバリエーションを増やす必要がある。
- ・数名の学生の取得単位数が少なく、そのような学生が出ないようにすることが今後の課題である。
- ・欠席過多の学生の指導に力を入れたが、おそらく成果はあまりなかったと思われる。
- ・成人へのモラトリアム(猶予期間)が、まだ続いている。
- ・大人になることへの自覚や責任感が足りない。
- ・自己管理が十分でない。
- ・思考力の深さ、的確な判断力に欠ける。
- ・他人と共有する価値観、切磋琢磨する人間関係、自己理解が不十分。
- ・自己の将来像への、明確な目標や、キャリアデザイン(人生設計)が確立されていない。
- ・意欲をもって取り組んだ学生とそうでない学生の間に成果の差があったように思う。
- ・入試が学科別になった影響を受けて、平成 28 年度からの教養ゼミのクラス編成については一部で変更があり、国際経済学科の新入生のみからなる1クラスが特別に編成された。(経済学科と税務会計学科は合同。)平成 29 年度からの教養ゼミのクラス編成方針は今のところ未定である。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 重迫 隆司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

2グループ ①グループ 13 名, ②グループ 14 名

■ 学習の到達目標および授業のねらい

到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

* コミュニケーション能力の基礎となる力: 聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自信を持って発表(プレゼンテーション)する力など。

授業のねらい

- (1) 1年生全員が教員全員と顔を合わせる。
- (2) 学生全員がお互いに交流を深める。
- (3) 大学生としてのやる気を高める。
- (4) 到達目標を明確化することで自分に自信を持つ。

■ 実施内容

第1回 4/13(月)&14(火): ①②グループ別 ガイダンス

第2回 4/20(月)&21(火): ①②グループ別「図書館」ガイダンス

以下、ガイダンス、プレゼンテーションを除き、2人の教員ペアによる大学での学修、研究への導入のための実践的演習中心のゼミ(ホスト教員/ゲスト教員)を行う。

第3回 4/27(月): 重迫/原

第4回 5/11(月): 原/柳川

第5回 5/18(月): 柳川/山東

第6回 5/25(月)&26(火): ①②グループ別「保健管理センター」ガイダンス

第7回 6/1(月): 山東/重迫

第8回 6/9(火): 青木/脇

第9回 6/16(火): 脇/清水

第10回 6/23(火): 清水/山川

第11回 6/30(火): 山川/青木

第12回 7/6(月)&7(火): 各自、学生によるプレゼンテーションの準備

第13回 7/13(月): ①クラス学生によるプレゼンテーション(全学生、全教員)

第14回 7/21(火): ②クラス学生によるプレゼンテーション(全学生、全教員)

第15回 7/27(月): 投票結果発表・表彰とアンケート(全学生、重迫ほか)

* 第13回と第14回でそれぞれ「ベストプレゼン賞(仮)」を学生および教員の投票で決定。

■ 教養ゼミの成果

毎時間の学生コメント、最後のプレゼンテーションおよびアンケートの結果より、全員が到達目標に達したことを、学生、教員とも確認した。

■ 問題点, 改善点, 対応策

2グループで、月曜日と火曜日に別れて行った上、合同の日もあり、日程の混乱が若干あった。開講曜日、グループ分けの改善策を検討中。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

山崎理央, 野寺 綾, 川人潤子, 金平 希, 日下部典子

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数5, 各ゼミに8-9名の1年生が所属した。

■ 前期実施内容

テーマ:ピア・サポート訓練

主な内容:ピア・サポートとは／自己紹介ゲーム, 自分自身について知ろう, 一方通行と双方向のコミュニケーション, 傾聴について／聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう／大切なものランキング, ストレスへの対処, まとめ (その他に, 29 号館案内, 保健管理センター・大学会館案内, 図書館案内を実施)

■ 前期教養ゼミの成果

【授業全般】

初回は1年次生全員を対象に, 松田学長による特別講義(「ピア・サポート」という概念の紹介と必要性についての説明)が実施された。その後の授業では, 心理学科教員と3, 4年生のピア・サポート・トレーナーが教養ゼミ用に作成した冊子「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに, 学生同士がサポートしあうためのスキル(傾聴の基本スキルや質問・伝達スキル)の訓練を行なった。ロールプレイや話し合いを中心とした授業に出席することで, 傾聴やサポートの重要性を経験し, 互いに支えあう関係を築くことができた。

【上級生からのピア・サポート】

2年生:2年生全員を2・3名ずつのグループにわけ, ファシリテーターとして6つのうちいずれかの教養ゼミに参加した。教養ゼミ15回のうち2回は, このファシリテーターを中心に実施された(2年生には予め「ピア・サポートをはじめよう」の教員版の一部が配布され, それに基づいてピア・サポート訓練が行われた)。また, 5月には2年生主催で1, 2年生合同の交流会(ドッジボール大会)が開催された。

3年生, 4年生:ピア・サポート・トレーナー養成講座(現・学生サポーター養成講座)のメンバーが2, 3名ほどでグループを形成し, 各教養ゼミに配属された。サポーターは, 全15回の授業を通して1年生に対するピア・サポート訓練を実施した。なおサポーターの学生には予め「ピア・サポートをはじめよう」の教員版が配布され, それに基づいて教養ゼミが運営された。担当教員は毎回の講義に同席し, 終了後, 上級生のピア・サポート訓練の仕方の良かった点や改善点をアドバイスした。

このような上級生がサポーターとして授業に参加することで, 1 年生のピア・サポート訓練の効果が向上し, 学年を越えた交流が促進された。

■ 後期実施内容

教養ゼミでピア・サポート訓練を実施したのは前期のみであったが, 学年担任だけでなく各ゼミ担当教員が後期も引き続き, 自分が担当した学生との連絡や面談, 履修上の指導に関わった。さらに1年生を中心とする学生は, デートDV防止に関する学内講座にも参加し, 恋愛関係にある人物と良好な関係を築くにはどのような点に配慮すべきなのかを学んだ。

■ 今後の課題

次年度以降, 汎用的スキルの継続的な獲得をめざし, 1 年次の教養ゼミをさらに充実させる予定である。

具体的には, 前期にピア・サポート訓練に加えてPBLを実施し, 学生のグループ・ディスカッション・スキルの向上を図り, 後期は大学生に必要な基礎的学習スキルの習得を目指した内容とする。

■ 特記事項

今年度も, 心理学科教員が作成した冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を1年生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションでは, ピア・サポート・トレーナー養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

前期の段階で, 図書館案内のほか, 保健管理センターおよび大学会館を案内する機会を設けた。具体的には, 大学会館内食堂・フーズカフェやCLAFTの案内を行い, 1年生に施設を紹介することができた。

人間文化学部 メディア情報文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 渡辺浩司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:4(一年次担任:中嶋、田中、安田、内垣戸)

■ 前期実施内容

- 教務委員によるガイダンス
- 少人数ゼミ
- カウンセラー藤居先生によるゼミ
- CM コンテスト運営の準備
- 貸与 PC のセットアップ作業と操作法レクチャー

■ 前期教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。

カウンセラーの藤居先生は学生に対して学科教員とは異なるアプローチで接していただけなので、学生の普段見えない側面も垣間見ることができ、今後の指導において非常に参考になった。

■ 問題点, 改善点, 後期での対応等

後期は学科活動(講義科目外で実施している)や学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施した。

工学部 スマートシステム学科

■ 担当者氏名

(代表) 伍賀 正典

三宅 雅保, 三谷 康夫, 田中 聡, 香川 直己, 関田 隆一, 沖 俊任, 伍賀 正典

■ 実施内容

- 1 回目(4/8)概要説明、自己紹介
- 2 回目(4/15)授業の受け方、ノートの取り方
- 3 回目(4/22)図書館訪問
- 4 回目(5/7) 保健管理センター訪問
- 5～8 回目(5/13、5/20、5/27、6/3)小グループゼミ
- 9～15 回目(6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/15、7/22)ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3回目では、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 4回目では、保健管理センター藤居講師の指導で学生相談ガイダンスを行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から5つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 8～15回目まで、ミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では 3 号館 1 階のプロジェクトルームを用い、ロボット競技は 3 号館エントランスホールで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深める狙いもあり、十分な効果が出ていると考えられる。
- このミニロボットコンテストの作成物は、三蔵祭にも出展した。三蔵祭のイベントは 1 年生二名が世話役として活動し、学外から 100 名を超える来場者があった。また、このミニロボットコンテストの内容をもとに、第 24 回計測自動制御学会中国支部学術講演会、第 16 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会で教養ゼミを受講した 1 年生が登壇し口頭発表を行った。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

ここ数年、教養ゼミ予算を利用してミニロボットコンテストを開催しており、1 年生同士の親交が深まり良い効果が得られ、またこのプロジェクトを中心に学会発表や学外イベントなども実施できている。工作が得意な学生が中心となる傾向があるが、工作が不得手な学生へのフォローを行い、初年次生全体の底上げを行いたい。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表・1年担任) 酒井要, 佐々木伸子

大島秀明, 宮地功, 田辺和康, 都祭弘幸, 佐藤圭一, 藤原美樹, 山田明, 伊澤康一

■ 実施内容

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」では、デザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった理系から文系にわたる広範で多岐な分野を扱うことを知ることを目的としている。そのため、授業は課題を取り組みジャンルの中から探すことから始まり、興味と理解を深めていくためにPBL形式で行った。具体的には、6～7名の学生を各教員が担当するグループワークで指導し、「松永地域」を対象フィールドとした課題に取り組んだ。

最終回は、所属したゼミで取り組んだ分野だけでなく、各ゼミで取り組んだ内容を知るためにポスターセッション方式による成果発表会を実施し、プレゼンテーションを聴講することによって幅広い建築で取り組むジャンルと内容を学ぶ機会とした。

第1～14回:各ゼミでのグループワーク

第15回:ポスターセッション方式による最終発表会

- ・大島ゼミ 松永駅南口商店街再生計画1～3
- ・宮地ゼミ 松永ガイドマップ ～学生一人暮らし・大学の帰りに！～
- ・田辺ゼミ 福山市松永地区の液状化マップ作成
- ・都祭ゼミ 日本における住宅の現状 ～長寿命化～
- ・佐藤ゼミ 都市の建築
- ・藤原ゼミ 松永にみる伝統的建築意匠の一考察
- ・佐々木ゼミ 松永の住宅問題を探る 松永の今と今後問題となることは何か
- ・山田ゼミ 松永地区を対象とした建築物の構造種別と外壁の仕上げ材料の調査
- ・伊澤ゼミ 木造住宅の移り変わり
- ・酒井ゼミ ハザードマップからみた現状とこれから・松永町犯罪発生マップ

■ 評価方法

ゼミ担当が半期の取り組みを総合的に評価する「ゼミ担任の総合評価(50点満点)」と最終回の成果発表会でのプレゼンテーション(A1ポスターと発表5分・質疑応答)を全教員が1)取り組みの内容、2)発表質疑応答の内容、3)ポスターの表現、の3項目を4段階(5点～2点)で評価する「発表会の全教員評価平均(50点満点)」をあわせたもので評価をした。

また、各ゼミの取り組み・発表内容について、学生らにも評価をさせ、評価の高かったものを公表し、発表会後もしばらく掲示した状態にして、学生たちにプレゼンテーションに対する学びの機会となるようにした。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表) 占部逸正

■ 目的

1年次生に対し少人数クラスを編成し、初年次教育の一環としてコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。また、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

実施回数 15 回のうち、7 回は、テキスト「大学 学びのことはじめ:初年度ワークブック」に基づき、1) 自己紹介、2) 履修方法の確認、3) 大学施設(図書館、学生相談室)の見学、4) 課外活動や大学祭などの大学生活、5) 受講の心得、6) 資格取得について学び、7) クリーンアップ作戦として工学部新棟付近の清掃活動も実施した。残りのうち 3 回はグループワークを行い、5 回は教養講座を割り当てた。グループワークは学生を 4 ないし 5 人程度のグループに分け、テーマを考えて調査・資料作成・プレゼンテーション用ファイル作成を行い、最後にグループごとに発表を行った。各グループの発表の評価は学生達も行った。

グループワークに関しては 3 週間にわたる予定を設定し、

第 1 週 グループ分け、テーマの選択、役割分担、作業開始

第 2 週 調査、資料作成、プレゼンテーション用ファイル作成

第 3 週 みんなの前で発表、評価

を行った。

グループワークでは、教養ゼミの趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
 - ・学生と教員が接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
 - ・コミュニケーション、ディスカッション、文書作成、構成作業、プレゼンテーション資料作成、発表などの基礎的能力の向上
- を到達目的とした。

■ 成果等

教養ゼミを通して、大学生活や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになった。多くの教員と話をする機会を多くとることにより、担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、プレゼンテーション資料の作成方法や、実際の資料作成などを一通り経験し、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村 純壮

■ ゼミの学生数

3 名

■ 実施内容

- 第 1 回 ガイダンス, 顔合せ・挨拶, 授業実施方法説明, 自己紹介準備
- 第 2 回 自己紹介, ビデオ撮影&視聴, 反省・感想記入, スピーチ, 大学環境
- 第 3 回 大学生活について 大学と高校の相違点, 大学生活の送り方の注意
- 第 4 回 学習方法, 受講の心構え, 授業の聞き方, ノートの取り方, 授業外学修
- 第 5 回 「モノづくりのまち備後」で何を学ぶか, 身だしなみ, 挨拶と言葉づかい
- 第 6 回 自己紹介と他人紹介
- 第 7 回 社会人としてのマナー
- 第 8 回 来客応対と客先訪問
- 第 9 回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方 5 回分のまとめ
- 第 10 回 大学生活と就職, 就職概略スケジュール, 企業情報
- 第 11 回 就職活動, 就職試験, SPI適性検査模試実施(理科・物理関係), 解説
- 第 12 回 仕事と資格, 機械技術者関係資格
- 第 13 回 時事問題 調査・整理・プレゼンテーション
- 第 14 回 将来計画策定 将来計画プレゼンテーション 感想発表
- 第 15 回 特別講義「企業におけるモノづくりの方法」(企業講師)
- 第 16 回 教養講座(1)
- 第 17 回 教養講座(2)
- 第 18 回 教養講座(3)
- 第 19 回 教養講座(4)
- 第 20 回 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として、大学生活への適応や注意点、基礎力の育成と大学生活の目標、将来計画等をテーマとして取り扱った。今年度は、新しく、実践・体験型の「マナー&コミュニケーション」を実施して、挨拶、礼儀、作法、身だしなみ等の社会人マナー講座5回を行った。毎回の授業において、説明・問題提起、考察、整理、プレゼンテーション、質疑のプロセスを経るようにして、学生が自分で考えること、プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視した。学生も積極的に、関心を持って取り組んだ。授業を重ねるごとに、プレゼンテーションにも慣れ、学生相互のコミュニケーションも促進され、交友関係を築くことができた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

ICT 関係のテーマ、図書館オリエンテーション等の取り入れを検討したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

野西 利次

■ ゼミの学生数

3 名

■ 実施内容

- 第 1 回 教養ゼミの説明、自己紹介
- 第 2 回 初年次教育(大学の施設・設備、大学での授業)
- 第 3 回 初年次教育(学生生活、卒業後の進路)
- 第 4 回 初年次教育(機械工学の学習、4 年間の勉強)
- 第 5 回 マナー及びコミュニケーション
(はじめに、“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい)
- 第 6 回 マナー及びコミュニケーション(自己紹介と他人紹介)
- 第 7 回 マナー及びコミュニケーション(社会人としてのマナー)
- 第 8 回 マナー及びコミュニケーション(来客応対と客先訪問)
- 第 9 回 マナー及びコミュニケーション(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方)
- 第 10 回 物理演習問題を解く(単位、平面運動)
- 第 11 回 物理演習問題を解く(力のつりあい)
- 第 12 回 物理演習問題を解く(運動量と力積)
- 第 13 回 物理演習問題を解く(エネルギー)
- 第 14 回 物理演習問題を解く(振動)
- 第 15 回 特別講座
- 第 16 回 教養講座①
- 第 17 回 教養講座②
- 第 18 回 教養講座③
- 第 19 回 教養講座④
- 第 20 回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

第 1～4 回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明し、今後の勉強・生活面で進むべき方向を理解させた。第 5～9 回では、大学生あるいは社会人として必要な「マナーおよびコミュニケーション」をロールプレイングにより身に付けさせ、その重要性を認識させた。第 10～14 回では、力学を中心とした物理の問題を解くことにより機械工学専門科目の基礎力を身に付けさせた。

■ 問題点、改善点、次年度での対応策

特に問題点はない。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

内田 博志

■ ゼミの学生数

3 名（内 1 名は第 4 回目から休学）

■ 実施内容

1. Zelkova と Cerezo の使い方
2. 大学での学び方
3. 学生相談ガイダンス
4. スターリングエンジンの基礎
5. PC によるレポート作成
6. スターリングエンジンを回してみよう
7. スターリングエンジンのパワー測定
8. スターリングエンジンを太陽熱で回す
9. まとめ
10. 特別講義（企業における開発・設計）
11. マナー＆コミュニケーション（1）身だしなみ・挨拶と言葉づかい
12. マナー＆コミュニケーション（2）自己紹介と他人紹介
13. マナー＆コミュニケーション（3）社会人としてのマナー
14. マナー＆コミュニケーション（4）来客対応と客先訪問
15. マナー＆コミュニケーション（5）電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方

他に全学教養講座（第 1 回～第 5 回）を教養ゼミに組み入れ、全 20 回の授業とした。

■ 教養ゼミの成果等

最初の 3 回は、大学での学び方や大学生活の送り方など、大学新入生として持つべき心構えや基本知識を学習した。図書館オリエンテーションへの参加などを通じて、福山大学の施設やサービスの利用方法を学んだ。

第 4 回以降は、外燃機関の一種であるスターリングエンジンの調査や実験をベースに、レポート作成や表計算など、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけさせた。受講生にとって関心の深い機械工学の要素を織り込んだことで、興味深く学修できた様子であった。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

初年次教育として必須の教育内容について、さらに検討の余地がある。今後は、福山大学や学部・学科の概要、福山大学の各種学生支援制度の利用方法等も学習内容に加える。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋 圭司

■ ゼミの学生数

4人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法、レポート作成方法
4. 大学の施設、勉強方法など
5. マナーコミュニケーション(1)
はじめに、“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい
6. マナーコミュニケーション(2) 自己紹介と他人紹介
7. マナーコミュニケーション(3) 社会人としてのマナー
8. マナーコミュニケーション(4) 来客対応と客先訪問
9. マナーコミュニケーション(5) 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方、まとめ
10. 数学に親しもう。関数について考える。変化率、微分
11. 微分の公式を覚えよう。
12. プレゼンテーションの基礎
13. 微分の問題を解き、解き方を説明する
14. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう。
15. 特別講義
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

大学生生活を始めるための基本的なことは十分説明できた。大学の施設案内では図書館、プロジェクトラウンジ、学生相談室を見学した。マナーコミュニケーションは今回からの企画で、あいさつやマナーについてが講義された。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

配属生4人は多様な性格で、上級生が2人おり留年したり、欠席が多い学生が複数で、わずかにまじめな学生も交じって全員のコミュニケーションはうまくできなかった。ゼミ配属方法は問題として残る。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口 勝次

■ ゼミの学生数

3名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーションと他己紹介
- 第2回 キャンパスライフとスタディスキルズ
- 第3回 探究テーマの決定と調査開始
- 第4回 情報収集・分析
- 第5回 テーマのまとめ
- 第6回 プレゼンテーション計画と構成
- 第7回 プレゼンテーション準備
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 レポート作成・提出
『社会人としてのマナーとコミュニケーション』(鶴崎・内田・中東・小林教養ゼミと合同)
- 第10回 “モノづくりのまち備後”で何を学ぶか(身だしなみ, 挨拶と言葉づかい)
- 第11回 自己紹介と他人紹介
- 第12回 社会人としてのマナー
- 第13回 来客応対と客先訪問
- 第14回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方, まとめ
- 第15回 特別講義「企業における開発・設計」:ダイキョーニシカワ(株) 近藤弘信 講師
- 第16回 教養講座(第1回, 5月22日): 阿部眞久 講師
『夢を力に 〜いま、もっとも注目のワイン産地 北海道〜』
- 第17回 教養講座(第2回, 7月7日): 訓覇法子 講師
『福祉国家スウェーデンから見た日本の社会福祉』
- 第18回 教養講座(第3回, 11月5日): 大久保秀夫 講師
『人としての「在り方」と公益資本主義』
- 第19回 教養講座(第4回, 11月30日): 川本隆史 講師
『正義とケアの学びほぐし』
- 第20回 教養講座(第5回, 1月12日): 清水厚實 講師
『この道一筋60年 〜漢字と知的財産権の研究〜』

■ 教養ゼミの成果等

- (1)統一テーマ「環境対策自動車について」を簡単に説明し、メインのテーマの中で学生は探究するのに関心のある個々のテーマを設定した。情報収集・分析・整理の過程で、不明なところを点検し、背景、原理や仕組み、長所や短所などの特徴を明確にして、現在の問題点を抽出して考察を行った。個々のテーマに向き合うことで、これからの学修の意義を自覚することができた。
- (2)プレゼンテーションでは、図表を用いて難解な用語も分かりやすく丁寧に説明し、他の人に理解を促すなどの工夫があり、質疑応答も含めプレゼンテーションは良好であった。
- (3)特別講義は、昨年度と同じ講師であり、モノづくりの実情と社会人としての心構えなどの説明が工夫され、ゼミ学生は将来の方向性をより明確化する機会となった。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

専門分野の学修の入門期に体験学習を採り入れ、モノづくりへの興味を喚起し、モノづくりの楽しさを味わう機会になるような内容も検討していきたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

関根 康史

■ ゼミの学生数

5人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法やレポートの作成方法について
4. 大学の施設や勉強方法など（+”フロントマンとは？”について）
5. 安全を考えよう(その1)「機械遺産」から安全を考える
6. 安全を考えよう(その2)「モータースポーツ」から安全を考える
7. 安全を考えよう(その3)「自動車アセスメント」から安全を考える
8. 安全を考えよう(その4)「交通事故の事例」から安全を考える(前編)
9. 安全を考えよう(その5)「交通事故の事例」から安全を考える(後編)
10. 特別講義
11. 教養講座(1)フロントマン教育
（“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい）
12. 教養講座(2)フロントマン教育(自己紹介と他人紹介)
13. 教養講座(3)フロントマン教育(社会人としてのマナー)
14. 教養講座(4)フロントマン教育(来客応対と客先訪問)
15. 教養講座(5)フロントマン教育(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方、まとめ)
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

今年度配属された学生は5名で、うち1人は2年生であった。この2年生については、本来の性格はまじめであるが「人と対話することが苦手」なことから、教養講座(フロントマン教育)で欠席を重ねてしまって再履修となった模様。このため、前半では「相手の気持ちを良くさせることが良い仕事をする上で大事である」ことを説明する授業を行うようにした。大学生活を始める上での基本は十分説明できた。また、図書館の見学も実施した。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

本ゼミを履修した学生は5人であるが、当初の配属予定は6人であった。履修申告しなかった学生は2年生(再履修)であったが、1回も出席せず、かつ履修登録しなかったことを注意すると「自動的に再履修されていると思っていた。教養ゼミは6回までは欠席できるので出席しなかった。」との返事であった。最初から「何回までは欠席できる」と思い込んでいる学生は、ずるずると欠席→放棄を繰り返す傾向があり、今後の対応が課題。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミの学生数

4 名

■ 実施内容

- 【第1回】オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】図書館オリエンテーション
- 【第3回】課外活動のすすめ
- 【第4回】資格の種類と取得方法
- 【第5回】リサーチの方法、プレゼンテーションの方法
- 【第6回】プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:学生がだまされる危険について)
- 【第7回】プレゼンテーション
- 【第8回】プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:スポーツと新素材)
- 【第9回】プレゼンテーション、キャリアデザイン、小まとめ
- 【第10回】“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか 身だしなみ、挨拶と言葉づかい(1)
- 【第11回】挨拶と言葉づかい(2)、自己紹介と他人紹介
- 【第12回】社会人としてのマナー
- 【第13回】来客対応と客先訪問
- 【第14回】電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- 【第15回】特別講義「企業でのモノづくり」
- 【第16～20回】教養講座

■ 教養ゼミの成果等

受講生の主な感想は以下の通りである。

- ・スケジュールのチェックの重要性を再認識することができた。
 - ・各授業で配布されるプリント類の整理をしっかりと行こうと思った。
 - ・自己紹介で何を話すべきかがわかった。
 - ・SNS の活用法を陰に潜む危険について理解できた。また、学生を狙った訪問販売などには気を付けたい。
 - ・図書館の利用方法がわかった。
 - ・インターネット依存症を理解できた。今後気を付けたい。
- 以上のことから、学生個々において得るものがあつたものと考えられる。また、社会人としてのマナーについても身につけることができた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

周りの学生とコミュニケーションが苦手で、欠席が増えた学生がいた。このタイプの学生の対応策が必要である。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林 正明

■ ゼミの学生数

4 名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション 方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) モノづくりに必要なこと
- 3) “からくり”のふしぎについて
- 4) ペーパーパラシュートの製作(1) 検討・製作
- 5) ペーパーパラシュートの製作(2) 検討・製作
- 6) ペーパーパラシュートの製作(3) 発表・レポート作成
- 7) 紙からくりの製作(1) 検討・製作
- 8) 紙からくりの製作(2) 検討・製作
- 9) 紙からくりの製作(3) 発表・レポート作成
- 10) マナーアップコミュニケーション講座1
- 11) マナーアップコミュニケーション講座2
- 12) マナーアップコミュニケーション講座3
- 13) マナーアップコミュニケーション講座4
- 14) マナーアップコミュニケーション講座5
- 15) 特別講義
- 16) 第1回教養講座
- 17) 第2回教養講座
- 18) 第3回教養講座
- 19) 第4回教養講座
- 20) 第5回教養講座

■ 教養ゼミの成果等

本年度は各テーマを実施する前に大学での勉強内容だけでなく学生生活や就職活動などについても説明を行った。教員側からの一方的な説明ではなく受講生からの質問等も多くあり学生生活について理解が深まったものと思われる。前半の教養ゼミでは、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。また、後半では、マナーアップコミュニケーション講座を実施した。マナーアップコミュニケーション講座では社会人として必要なマナーなどを学習した。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

各自の取り組む姿勢の差があり全体的な到達目標に差が生じてしまった。また、学生間のコミュニケーションがなかなか取れなかった。次年度は、学生同士のコミュニケーションが取れるようグループで実施できる内容を検討する必要がある。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

原口 博行

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに初年次教育に求められている大学生生活への円滑な導入、および大学での学び方、教員や友人との信頼関係の構築にも役立つ内容を実施している。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

本学では教養ゼミを前期2単位の講義科目として15回実施しているが、本学科では演習科目として捉えて、通年30回実施している。加えて、教養講座も本科目の一環としてとらえている。実施回数のゆとりを活用して、随時他科目の補講にも利用することを可としている。

■ 実施内容

回	実施日	内 容
第1回	平成 27 年4月8日	【福山大学の理解・・・教養ゼミガイダンス】 カリキュラムの中での教養ゼミ・教養講座の目的について解説。教養ゼミで取り上げたいテーマについて話し合う。 クラス委員・三蔵祭委員選出。教務関係連絡事項。実習関係連絡事項。
第2回	平成 27 年4月 15 日	【大学生活への導入・・・履修登録】 ITC 教室で履修登録の続きを行い、完成させる。
第3回	平成 27 年4月 22 日	【お互いを知ろう・・・ディスカッション】 話題1 知的ゲーム「ウマ・ヒツジ・サル・ライオン・ウシ」(発表) 話題2 「教養と専門」、「subculture, popculture」 3年次生より歓迎会についての案内 履修確認の指導
第4回	平成 27 年5月7日	【補習時間】 「化学」練習問題
第5回	平成 27 年5月 13 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「地理・歴史、高校教育の困難」(読み物)を読んで討論 話題2 話題 1 をフォローし、「こんな科目があればいいのに」(フリートーク)
第6回	平成 27 年5月 20 日	【福山大学の理解】 福山大学・生物工学科の歴史について解説。
第7回	平成 27 年5月 22 日	【第1回教養講座】 シニアソムリエ 安部真久先生「夢を力に～今もっとも注目のワイン産地 北海道」

第8回	平成 27 年5月 27 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「目からウロコ」、「WAZA」などを例に、言い回し・熟語の由来から、 教養とは何かについて話し合う。 話題2「戦後 70 年、未来志向で教訓を学べ」(読み物)を読んで討論
第9回	平成 27 年6月3日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「最近気になる世間の出来事」アンケートとフリートーキング 話題2「若者の現実と未来」(読み物)を読んで討論
第10回	平成 27 年6月 10 日	【補習時間】 化学 I の定期試験
第11回	平成 27 年6月 17 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「FIFA の汚職問題」について話し合う。 話題2「教養と科学技術、車の両輪」(読み物)を読んで討論
第12回	平成 27 年6月 24 日	【お互いを知ろう…ディスカッション】 話題1「東京五輪、文化・技術の発展の契機に」(読み物)を読んで討論 話題2 知的ゲーム「サンドイッチゲーム」 図書館アンケートに回答
第13回	平成 27 年7月1日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「ギリシャの通貨危機」について討論 話題2「18 歳選挙権と日本人の政治参加意識」についてフリートーキング
第14回	平成 27 年7月7日	【第2回教養講座】 日本福祉大学教授 訓覇法子先生「福祉国家スウェーデンから見た日本の社会福祉」
第15回	平成 27 年7月8日	【福山大学の理解…福山大学の歌】 三蔵五訓を解説し、みんなで唱和。続いて福山大学の歌を CD で聞き、 歌詞を解説。みんなで合唱。
第16回	平成 27 年7月 15 日	【学習意欲の喚起】 話題1 保健管理センターの案内 話題2 「大学生活半年、こんなはずじゃなかった」フリートーキング
第17回	平成 27 年7月 22 日	【学習意欲の喚起】 前期試験・夏季休暇に関する留意点
第18回	平成 26 年 9 月 30 日	【補習時間】 植物栽培実習 結果のプレゼンテーション(1)
第19回	平成 27 年 10 月7日	【補習時間】 植物栽培実習 結果のプレゼンテーション(2)
第20回	平成 27 年 10 月 14 日	【福山大学になじむ…みんなで大学祭】 大学祭学科企画日手の打ち合わせ。
第21回	平成 27 年 10 月 21 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「ラグビーW杯」についてフリートーキン 話題2「世界の日本人ジョーク」(読み物)を読んで討論
第22回	平成 27 年 11 月4日	【お互いを知ろう…ディスカッション】 話題1「私にとって 5 番目に大切な人」アンケート 話題2 知的ゲーム「創作四字熟語」
第23回	平成 27 年 11 月5日	【第3回教養講座】 CIESF 理事長 大久保秀夫先生「人としての在り方と公益資本主義」
第24回	平成 27 年 11 月 11 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「パスク・ヤポニカ」(読み物)を読んで討論 話題2 日本の祝祭日についてトーキング
第25回	平成 27 年 11 月 18 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「IS によるパリのテロ」について考察 生物観察実験のイントロダクション

第26回	平成27年11月25日	【補習時間】 化学実験実習試験
第27回	平成27年11月30日	【第4回教養講座】 ICU 教授・東大名誉教授 川本隆史先生「正義とケアの学びほぐし」
第28回	平成27年12月2日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「今年印象に残った社会の出来事」についてディスカッション 話題2「集団的自衛権・個別的自衛権」(読み物)を読んでディスカッション
第29回	平成28年1月6日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「今年の展望」についてアンケート 話題2「世界の安定へ、重い日本の責務」(読み物)を読んでディスカッション
第30回	平成28年1月13日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題「日本語について」(アンケート・発表)
第31回	平成28年1月20日	【補習時間】 各種連絡事項など
第32回	平成28年1月21日	【第5回教養講座】 本学理事長 清水厚實先生「この道 60 年、漢字と知的財産権の研究」
第33回	平成28年1月22日	【学習意欲の喚起】 話題1「求められる人間像」についてディスカッション 話題2 high culture と sub-culture についてトークキング

■ 評価について

提出されたレポート(教養講座を含む)を教養ゼミ担当教員が点検・評価。態度(出席状況と学習姿勢)を総合的に評価した。その結果概ねの学生が80点以上の評価となった。レポート等提出物は学生に返却済み。

■ 次年度への課題

- (1)一昨年の課題として、教養講座を教養ゼミの一環として実施するようになり、教養ゼミの中での位置付けをしっかりとさせることを念頭に、教養講座の内容をディスカッションの題材として取り上げる時間を持た(上記の表には入れていない)ことは、さらに進めたい。
- (2)福山大学教育システムを周知徹底して、教養ゼミを含めた本学での学び方を全学生に理解を促す時間を適切に取り込む。
- (3)各回のゼミのテーマにより、受講生の食いつきに差がある。学生が取りつきやすい話題にするのか、従来の教養的センスを身につける話題をうまく導入するのか、時事的な社会性の高い話題を提供するか、次年度以降も検討したい。
- (4)来年度からは、本学科のワイン・ブドウプロジェクトとの連動のため、2年次生の果樹生産加工実習の一部を1年次生との共同作業とする予定であるので、教養ゼミの時間を一部これに充てる予定である。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 菊田安至

山本英二, 高橋知佐子, 村上泰子, 石崎由美子, 木村安美,
赤木収二, 近藤寛子, 久保田みどり, 石井香代子

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 5 ゼミの学生: 8 名 (ただし、前半はクラス全体で実施。後半に少人数制のゼミ数 5 で実施。)

■ 前期実施内容

全体ガイダンス4回(大学ならびに学科の説明、履修科目の Web 登録など)、図書館(15 号館および 34 号館)の見学、保健管理センター見学、学科親睦スポーツ大会など合計8回を導入教育とし、大学における学修の全体像を把握するとともに、大学での生活に慣れることを主目的として行った。さらに、26 年度から行っている、基礎学力向上プロジェクトを少人数で5回実施した。基礎学力向上プロジェクトでは、国語(語彙力、漢字能力および書き取り能力)、化学、生物学、栄養学などに関する学修への取り組み方の理解と基礎力アップを目指した練習問題を解答と解説を行った。本学科は、1 年次前期から管理栄養士の国家試験に出題される問題に直結する専門科目(栄養学、食品学、医学、生化学など)が開講されており、教科書(特に医学系科目)の語句や漢字の理解が難しく、対応しきれない学生が見受けられたことから、まずは学科の専門科目に必要な基礎学力の向上を優先している。この他に、前期中に2回行われた教養講座に参加し、教養を深めた。

以上の15回の教養ゼミにより、学生生活へのスムーズな移行に必要な知識と技能を学んだ。

■ 前期教養ゼミの成果

前期は、1 年次生が大学での学修と生活に慣れることに一定の成果があったと考える。目標を明確に定め、それに向かって進むための方法を分かりやすく示すことで、4年間の学修の基礎を築いた。

■ 問題点, 改善点, 後期での対応策

入学生の学習能力に差があり、入学前教育を受けた学生と受けていない学生が混在することから、格差をできる限り解消して、スムーズな大学生活への移行を目指している。そのために、大学での学習と生活に慣れることと学習能力の向上に即効性のある授業とを組み合わせるもの、目標を明確に持てない、あるいは学修に自信のない学生が多い。特に、学習能力の格差解消は容易でない。また、本学科では入学直後の前期から管理栄養士の資格取得に関わる専門科目の授業が行われることから、教養ゼミの成果をゆっくりと待つ余裕はない。新入生が本当に必要としているものを示すことを目指して、毎年教養ゼミの内容の見直しを行う。

■ 後期実施内容

後期の授業開始と同時に、大学祭での学科紹介のための準備を、役割を決めて 7 回集中的に実施した。イベント係、食品係、展示係などに分かれて、それぞれが責任を持って準備し、大学祭当日は展示の説明にあたるなどした。これにより、クラスや学年を超えて一つの課題に取り組み、人と繋がることの大切さを学んだ。

大学祭終了後に少人数班別ゼミナールを 5 回行った。班別ゼミナールは、専門分野を学修するにあたり必要な技能と態度の修得を目指し、学士になる目的、管理栄養士の社会的役割、医療職に就くことの意味についてそれぞれ学び、本学科で学ぶことの意義や心構えを十分に学んだ。この他に、後期中に3回行われた教養講座に参加し、教養を深めた。

■ 後期教養ゼミの成果等

後期は、大学祭に参加することを通じて、幅広い人とのコミュニケーションを体験した。後半の少人数の班別ゼミナールでは、専門的な学修により管理栄養士資格を取得し、そして社会で活躍するまでの道筋を明らかにした。

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 12

ゼミの学生数: 8-9 名

全学生数: 99 名

■ 前期実施内容

- 1) 全体ガイダンス: 教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2) 自己紹介 (自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、)
- 3) 図書館の利用法、カウンセラーによる学生相談ガイダンス
- 4) 個人面談- 学生生活、欠席調査など
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成- グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成- グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定- 全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 定期試験への心構え

■ 後期実施内容

- 1) 全体ガイダンス: 教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2) 自己紹介 (自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、)
- 3) 図書館の利用法、カウンセラーによる学生相談ガイダンス
- 4) 個人面談- 学生生活、欠席調査など
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成- グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成- グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定- 全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1) スモールグループディスカッション (SGD) による少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2) 学生生活や教務 (履修方法、欠席調査、ゼルコバの操作方法、定期試験への対応など) の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
- (3) 大学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、例年、司会進行役は教員が担当していた。今年度からその役を学生にバトンタッチした。予想に反して、学生が立候補して司会進行役を務めてくれた。
- (4) プロダクトとして大学祭の展示企画 (3つのテーマ、展示内容、必要物品等) についてまとめることができた。
テーマ: 1) ボトルリウムの作成・2) 挑戦 Dr.Fish・3) 金魚すくい (定番)。

- (5) 大学祭を通じて学生同士の団結力を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。一方、準備などを進んでやらない同級生に対して、リーダーシップやコミュニケーション力をどのように発揮したらよいのかを学ぶいい機会を与えることができた。
- (6) 大学祭の来場者(子どもや高齢者など)への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、あまり知識をもたない人にうまく理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいのか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
- (7) 大学祭のかたづけでは男子、女子に関わらず、人の嫌がることを進んでやってくれたので責任感をもたせることができた。
- (8) 学生一人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらった。
- (9) 平成 26 年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。

■ 問題点, 改善点, 対応策

- (1) 教養ゼミが時間割の都合で 5 時限に開講しているが、1～4時限の授業を受けている学生にとっては疲れがでてきて、集中力を維持するのが難しい場合があった。
- (2) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月～金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によっては一部スケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (3) 今年度は以前に比べて積極的にリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に指導能力を発揮してもらった。今年度は、しっかりとリーダーシップを発揮する学生の割合が顕著に増えた。しかしながら全体で3テーマであることからテーマあたり学生数が 30～40 名と非常に多いので展示企画の仕事を進めていくのが難しいと感じた。
- (4) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間、執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。
- (5) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて学生が主体となって取り組むことができる環境づくり(目標をしっかりと理解してもらう、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていく。
- (6) 昨年度と同様に、学生からのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
- (7) 各研究室に所属する4年生による4つの専門コースの展示、学芸員実習による展示とジョイントした。1年生は4年生や学芸員実習による展示に興味を示し、先輩達の活動内容を積極的に聞く学生も一部にみられた。少しずつ学年間の交流が円滑にみられるようにアクティブラーニングを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。

薬 学 部

■ 担当者氏名

(代表)井上裕文

(担当)岡村信幸, 井上裕文, 田淵紀彦, 上敷領淳, 松岡浩史, 前原昭次

渡邊正知, 瀬尾 誠, 坂根 洋(薬学入門担当)

小嶋英二郎, 秦 季之, 田淵紀彦, 杉原成美, 田村 豊, 長崎信浩(クラス担任)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:井上裕文)

毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(3名)ならびにクラス担任(2名)がチューターとして指導を行い、さらに5年生も学生チューターとしてサポートにあたった。

※日程・方略は別紙参照

2 教養講座(担当責任者:小嶋英二郎)

教養講座(5回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

- ・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。
- ・平成27年度は教養講座を欠席し、教養講座レポート未提出のため、2名(退学13名含)の学生が不合格となった。昨年度に比べ不合格は減少しているため、新入生オリエンテーションでの徹底した周知の効果があったものと考えられる。今後も教養ゼミ(教養講座)について新入生オリエンテーションで徹底して周知する予定である。

薬学入門前期（平成27年度）																			
4 月					5 月					6 月					7 月				
							3	4	5			3	4	5			3	4	5
					1	金				1	月	中間試験			1	水	方略8A(体験学習) (P3)		
	木	3	4	5	2	土				2	火				2	木			
3	金	入学式			3	日	憲法記念日			3	水				3	金			
4	土				4	月	みどりの日			4	木				4	土			
5	日				5	火	こどもの日			5	金				5	日			
6	月				6	水	振替休日			6	土				6	月	方略8B(発表会準備) (P1)		
7	火				7	木				7	日				7	火	方略8B(発表会準備) (P2)		
8	水				8	金				8	月		方略8A(体験学習) (P1)			8	水	方略8B(発表会準備) (P3)	
9	木				9	土	方略4 石原先生		※1, 2限目	9	火	方略8A(体験学習) (P2)			9	木			
10	金				10	日				10	水	方略8A(体験学習) (P3)			10	金			
11	土				11	月	方略5 (P1)			11	木				11	土	授業予備日		
12	日				12	火	方略5 (P2)			12	金				12	日			
13	月	方略1(P1)			13	水	方略5 (P3)			13	土				13	月	方略8C 発表会 (P1)		
14	火	方略1(P2)			14	木				14	日				14	火	方略8C 発表会 (P2)		
15	水	方略1(P3)			15	金	開学記念日			15	月	方略8A(体験学習) (P1)			15	水	方略8C 発表会 (P3)		
16	木				16	土			※1, 2限目	16	火	方略8A(体験学習) (P2)			16	木			
17	金				17	日				17	水	方略8A(体験学習) (P3)			17	金			
18	土				18	月	方略6 (P1)			18	木				18	土	授業予備日		
19	日				19	火	方略6 (P2)			19	金				19	日			
20	月	方略2(P1)			20	水	方略6 (P3)			20	土				20	月	海の日		
21	火	方略2(P2)			21	木				21	日				21	火			
22	水	方略2(P3)			22	金				22	月	方略8A(体験学習) (P1)			22	水			
23	木				23	土	方略7		※1, 2限目	23	火	方略8A(体験学習) (P2)			23	木			
24	金				24	日				24	水	方略8A(体験学習) (P3)			24	金			
25	土	方略3 菅先生		※1, 2限目	25	月				25	木				25	土	授業予備日		
26	日				26	火				26	金				26	日			
27	月				27	水				27	土				27	月			
28	火				28	木				28	日					全体説明:研修室1			
29	水	昭和の日			29	金				29	月	方略8A(体験学習) P1							
30	木				30	土				30	火	方略8A(体験学習) P2							
					31	日													

薬学入門前期方略(平成27年度)								
方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。	4月13?15日 (月-水) 3-4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	1-1	講義 1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	研修室1	岡村・長崎・井上・渡邊・田淵・ 上敷領・松岡・前原 (担任)	40	資料配付・作業説明
	1-2		SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」を 抽出(KJ法)	研修室1	担任	10	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタック シールに書き出す	
	1-3		SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」の 島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを 作成する	
	1-4		SGD 今日からできること(今後の行動目標)		担任	30	資料配布:課題(2)	
	1-5		発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50		
2	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について 討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを 討議し、概説できる。	4月20?22日 (月-水) 3-4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	2-1	講義 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について(KJ法)	研修室1	井上・田淵・松岡(説明) (月、火、水)	10	作業説明
	2-2		SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について抽出(KJ法)	研修室1	担任	15	意見をタックシールに書き 出す	
	2-3		SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 の島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを 作成する	
	2-4		発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙	
	2-5		調査 SGD 疑問点についての調査とまとめ		担任	60		
3	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せに ついて気づきの学習をする。	4月25日(土) 1-2時限	3	講義 1 身体とこころの体感・気付きのワーク 2 グループワーク (お友達のを借りて問題解決)	研修室1, 2	菅 (担任)	180	
4	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月9日(土) or 5月16日(土) 1-2時限	4	講義 1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室1, 2	石原 (担任)	180	レポート提出
5	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	5月11?13日 (月-水) 3-4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	5-1	講義 「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について	研修室1	井上・田淵・松岡(説明) (月、火、水)	10	作業説明
	5-2		SGD 「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグ ループ内で発表	
	5-3		SGD 「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマッ プの作成		担任	40	模造紙にマップを作成	
	5-4		発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙	
	5-5		調査 SGD 疑問点についての調査とまとめ		担任	60	書籍を利用して調査	
6	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の 役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、 その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割に ついて討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月18日～ 5月20日 ※詳細は 日程表参照	6-1	講義 「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について	研修室1	井上・田淵・松岡(説明) (月、火、水)	10	作業説明
	6-2		SGD 「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグ ループ内で発表	
	6-3		SGD 「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」につい てイメージマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成	
	6-4		発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙	

大 学 教 育 セ ン タ ー